

第三者評価結果入力シート（児童養護施設）

種別	児童養護施設
----	--------

① 第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

② 評価調査者研修修了番号

SK2021096

S2021052

神機構-1090

③ 施設名等

名称：	城山学園
施設長氏名：	鈴木 高広
定員：	45名
所在地(都道府県)：	神奈川県
所在地(市町村以下)：	
T E L：	
U R L：	

【施設の概要】

開設年月日	1967/7/21
経営法人・設置主体（法人名等）：	社会福祉法人城山学園
職員数 常勤職員：	30名
職員数 非常勤職員：	9名
有資格職員の名称（ア）	児童指導員
上記有資格職員の人数：	9名
有資格職員の名称（イ）	保育士
上記有資格職員の人数：	15名
有資格職員の名称（ウ）	栄養士
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（エ）	自立支援担当職員
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（オ）	里親支援専門相談員
上記有資格職員の人数：	1名
有資格職員の名称（カ）	
上記有資格職員の人数：	
施設設備の概要（ア）居室数：	7ユニット
施設設備の概要（イ）設備等：	心理療法室、会議室、彩りルーム（学習室）、医務静養室、宿直室
施設設備の概要（ウ）：	宿泊室、パレットホール（地域交流スペース）、厨房、にじ
施設設備の概要（エ）：	

④ 理念・基本方針

<学園の理念>

養育の知見に基づき、子どもの存在そのものを受けとめ、子どもの人権を守り、子どもと向き合い、生活を共にしながら『自己を大切にし』『他者を大切にできる』人として育むこと。

⑤ 施設の特徴的な取組

○園長が退職して不在の中、主任が職務を代行して、副主任以下職員全員が一丸となって、子どもたちの養育・支援に取り組んでいる。前園長の思いを引き継ぎ、子どもたちが安全で安心した生活を送ることができるよう、子どもたちの意思を尊重しながら、子どもたちの話に耳を傾けて支援している。子どもたちは元気で明るく、コロナ禍を乗り越え、現在は楽しいクリスマス会などの行事も元に戻りつつある。地域の中の児童養護施設として、里親支援に力を入れる他、あらたに地域小規模児童養護施設の開設に取り組んでいる。

⑥ 第三者評価の受審状況

評価実施期間（ア）契約日（開始日）	2023/6/30
評価実施期間（イ）評価結果確定日	2024/2/20
前回の受審時期（評価結果確定年度）	令和2年度（和暦）

⑦ 総評

○昭和42年開設の歴史のある園で、自然に恵まれた環境の下、こどもたちは7つのホームに分かれて生活を送っている。また、地域小規模児童養護施設（ぐるーぶほーむ指路）では、6人の子どもが生活している。法人の取り組みとして、あらたに地域小規模児童養護施設の開設を計画しており、地域の中の児童養護施設としての取り組みをすすめている。

○7つのホームには、7色の虹にちなんだ名前が付いている。各ホームには、個室と2人部屋、キッチン、リビングがある。共有スペースは毎日、職員が掃除をして清潔を保っている。土・日曜日には、子どもたちが自分の部屋の掃除を行っている。子どもたちは、好きな漫画を自作の本棚に収めたりして、自分の空間を作って楽しんでいる。学園の畑で、野菜作りの手伝いをする機会もある。

○各ホームに2名の担当職員を置き、子どもの思いや言動を受け止め、理解するように取り組んでいる。担当職員だけでは難しい場合は、全職員で相談して対応している。子どもたちは様々な体験をしてきており、入所前のことは、職員からは聞かないようにしている。不登校の子どもは、何が問題なのか、現状をしっかり受け止め、信頼関係を築きながら支援している。

○子ども会議（小学生、中学生）や全体会議など、こどもたちが主体的に、自分たちの生活を考える場を設けている。子どもたちの声を聞き、曜日ごとの遊びや、スマホのルールなどを変更している。失敗した時は、どうすればよかったのか、次はどうするのかなど、子どもと職員と一緒に振り返りを行っている。子どもの失敗は、子どもが成長していくうえでの貴重な経験と捉えている。

○勤務時間の中に「子どもと過ごす時間」を作り、カラオケやボーリング、外出など、担当職員が子どもと一緒に外出している。楽しみの時間を子どもと共有し、年2回、「外食の日」も計画している。幼児には、担当職員が子どもに寄り添い、一緒に入浴し、添い寝をして、寝かしつけている。寝る前には、絵本の読み聞かせをするなど柔軟に対応している。入浴の順番は、各ホームで臨機応変に対応している。

○生い立ちを振り返る取り組みは、本人が知りたいと思うタイミングで対応できるように、児童相談所と連携して慎重に行っている。担当職員以外には知られたくないという思いの子どももいる。子どもの意向と保護者の意向に沿った支援方法を職員会議などで検討し、職員間で共有している。児童相談所のケースワーカーと職員が同席し、一緒に振り返りを行っている。子どもがどんなふうを受け止めているのか、職員間で共有し、支援に取り組んでいる。

○朝食と夕食は、厨房で調理したものを各ホームで温め、手を加えて提供している。休日の昼食はパレットホール（食堂）で、全員でコミュニケーションを取りながら楽しく食べている。月2回、日曜日の夕食、各ホームごとに子どもたちがメニューを決め、材料から用意し、調理している。また月2回、メニューは決まっているが、子どもと一緒に調理している。子どもと一緒に調理することで、苦手なものや食べたことのないメニューにチャレンジする機会を作っている。

○子どもたちの進路は、自立支援担当職員を中心に対応している。高校生になってから、進学と就職のどちらを目指すのか、担当職員と具体的に話し合いを行っている。進学の場合、奨学金制度などの情報を提供している。本人の意向を聞き、自分で進路が決められるようにしている。子どものアフターフォローは月1回程度、連絡をとり話を聞いている。必要に応じて会いに行き、直接支援をしている。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

3年前と状況が変わっている中その点も考慮していただきつつ、評価基準に照らしご指摘をいただきました。真摯に受けとめ改善してまいります。

⑨第三者評価結果（別紙）

（別紙）

第三者評価結果（児童養護施設）

共通評価基準（45項目） I 養育・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する養育・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	○

【コメント】

学園の理念は事業計画書に掲載し、年度当初の職員会議で、あらためて職員に周知している。職員会議は月2回開催して、年度当初の職員会議では、事業計画書を職員に配布している。コロナ禍で、年1回開催している保護者会を中止しているため、保護者へは、事業計画書を抜粋した資料を送付して、理念を伝えている。子どもたちには、月1回開催する子ども会議の場で、行事の予定が中心になるが、理念にも触れるようにしている。

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。	第三者 評価結果
① 2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	
<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、養育・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	
<input type="checkbox"/> 定期的に養育・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	

【コメント】

園長が体調不良により昨年度末に退職し、現在、主任が園長代行として職務についている。園長が参加していた会議などには主任が出席して、社会福祉事業全体の動向を把握するよう努めている。入手した情報は、職員会議で職員に説明するとともに、関係資料を回覧している。地域小規模児童養護施設を、あらたに開設する予定で、町との相談、連絡を密に取っている。設計事務所などが具体的に決まった段階で、職員からも意見を聞いていきたいと考えている。

② 3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
<input type="checkbox"/> 経営環境や養育・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○

【コメント】

国や県の動向を確認して、「社会福祉充実計画」を策定している。地域に向けた取り組みとして、あらたに地域小規模児童養護施設の開設に取り組んでいる。令和7年度の開設に向け、職員の採用にも取り組み、今年度に2名の職員を採用し、次年度も1名の採用が内定している。採用にあたっては、職業技術校に働きかけ、学園の活動内容を紹介する時間を設けてもらっている。現在、スーパーバイザーが退職したことから、内部研修の企画は、研修委員が担当している。

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
① 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。	
<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	
<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	
<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	

【コメント】

国や県の動向を確認して、5ヶ年計画の「社会福祉充実計画」を策定している。国が示す高機能化や小規模化、多機能化、地域分散化に対し、学園ですぐに取り組めることと、すぐには取り組めないことを明確にして、学園内の子どもたちの生活を中心に、可能などころから関わるようにしている。また、町や町社会福祉協議会と連携を取りながら、取り組みを進めている。高機能化の取り組みとして、医療的ケアのニーズに対応できるようにしたり、高年齢の子どもを受け入れていく体制作りを行っている。

②	5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。	a
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○

【コメント】

「社会福祉充実計画」の内容を踏まえ、重点的課題として単年度の事業計画に位置付けている。地域小規模児童養護施設の建設を含め、地域に資源を還元できるよう、計画作りに取り組んでいる。これまで「伝える場」として実施していた内部研修も、今年度は、学園内の全体研修に変えている。全体研修は、子どもの権利や感染症対策、性教育などのテーマで、外部講師を招いて開催している。

(2) 事業計画が適切に策定されている。

①	6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	a
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。	
	<input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。	○
<input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)がされており、理解を促すための取組を行っている。	○	

【コメント】

3月の理事会に合わせ、職員の声を聞き、それぞれの部署で分担して、事業計画をまとめている。また、主任や副主任、主任事務員が集まって運営会議を開催して、内容を検討している。職員には年度当初の職員会議の場で、事業計画の内容を説明している。策定した事業計画の内容を振り返る手順は、明確にはなっていない。

②	7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。	b
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	
<input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。		

【コメント】

保護者会を学園の行事に併せて開催しているが、ここ数年は、コロナ禍で中止にしている。そのため、事業計画書の簡易版を作成して、保護者に送付している。保護者会は、日程を固定して、9月23日のバザーか、12月第3土曜日のクリスマス会に開催している。子どもたちへは、子ども会議の中で、行事の予定を中心に説明している。コロナ禍では、子どもたちの行事も工夫して、夏のキャンプも、一区画を貸し切れるキャンプ場で行っている。

4 養育・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。

第三者
評価結果

①	8 養育・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく養育・支援の質の向上に関する取組を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容について組織的に評価(C: Check)を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。	○

【コメント】

年1回、全国児童養護施設協議会作成の「児童養護施設における人権擁護のためのチェックリスト」に、学園全体で取り組んでいる。また、職員が年3回、「人権チェックリスト」で振り返りを行い、併せて個人面談を行っている。年3回の個人面談は、常勤の直接処遇職員を対象にして実施し、主任と副主任が対応している。子どもたちの自立支援計画は、中期の振り返りを含め、年3回、内容を検討している。第三者評価及び自己評価にも定期的に取り組む、養育・支援の質の向上に向けた取り組みを組織的にやっている。

②	9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	b
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	
<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。		

【コメント】

評価結果から改善点を明確にし、職員間での共有や改善への取り組みを実施しているが、長期に渉るものは、曖昧になる傾向がある。子どもたちへの接し方など、統一できていないという声もあがっていることから、徹底していく必要があると捉えている。計画的な改善策については、課題も残っている。

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。		第三者 評価結果
①	10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	

【コメント】

現在、園長が不在で、主任がその職を代行している。園長の不在が長期に渉ると子どもたちが不安を感じる可能性もあることから、まずは子どもたちに不安を与えないように留意している。主任以下職員の役割については、事業計画書に主な職務内容や「役務分担」表として記載して、職員に周知を図っている。主任の不在時は、副主任に権限を移譲しているが、主任及び副主任の3名全員が不在にならないよう、勤務を調整している。

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○

	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【コメント】

園長が体調不良により昨年度末に退職し、現在、主任が園長代行として職務についている。園長が参加していた会議などには主任が出席して、遵守すべき法令などを正しく理解するよう取り組んでいる。職員に必要な情報は、職員会議で職員に説明するとともに、関係資料を回覧している。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 養育・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、養育・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【コメント】

子どもたちの養育・支援は、主任を中心にして取り組んでいる。職員の意見を大切にして、個人面談の場でも、困りごとや支援方法の相談を受ける他、職員の声を多く聞くようにしている。今年度は研修の充実に取り組み、職員に研修案内の情報を伝え、希望する研修にできるだけ参加できるようにしている。特に入職4年目までの職員は、コロナ禍で外部研修の参加がほとんどなかったため、積極的に外部研修に参加できるようにしている。県の児童福祉施設職員研究会では、毎月、研修会が企画されていることから、若い職員を派遣している。若手の職員は、学園の中のつながりだけでなく、他施設との横のつながりを作ってほしいと考えている。情報交換会や実践報告会への参加を促している。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。		

【コメント】

職員が働きやすい環境作りとして、断続勤務と交替勤務の両方を取り入れる他、宿直手当の増額、休曜日数の増加などを行っている。勤務シフトは主任が作成しているが、職員の勤務に無理がないようシフトを作成している。来年度の入職人数にもよるが、新採用者が予定通りであれば、断続勤務から交替勤務に切り替えることが可能と捉えている。職員の中途採用では、他職種の経験のある人の採用も視野に入れている。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		第三者 評価結果
①	14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○

<input type="checkbox"/>	□計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	(社会的養護共通) □各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員の採用は、主任が担当している。職員の募集は、ホームページやハローワークを中心に行い、求人サイトは活用していない。今後の事業展開を見据え、人材確保に努めており、現在、人員の確保については特に問題はない。新人職員に対しては、「はじめの一步」にて、教育を行っている。入職後1ヶ月は、同じ部屋の担当職員と同じ勤務時間帯で仕事をして、OJTによる新人教育を行っている。

②	15 総合的な人事管理が行われている。	b
<input type="checkbox"/>	□法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

一定の基準での職員の評価は難しいと感じている。子どもたちの養育・支援は、やった分だけの評価ではなく、どんな評価をしたらよいのかとの声も上がっている。学園が期待する職員像は明確にはしていないため、階層別の職員像を示したいと考えている。子どもの代弁ができる職員、日々の関係性から信頼関係を築くことができる職員、先の見通しができる職員になってほしいことを、職員の入職時に話している。

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

①	16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	a
<input type="checkbox"/>	□職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	□福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

職員が働きやすい職場環境作りとして、休暇や給与面での待遇について改善を重ねてきたが、今後は勤務時間などについても改善を図っていきたいと考えている。子どもの養育・支援の仕事は、学校行事やカンファレンスなどの参加もあり、時間通りにあがるのが難しい状況にある。職員が勤務時間内であがれるよう、副主任や主任事務員と、運営会議で検討を行っている。有給休暇は、職員が年10日は取得している。

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/>	□施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/>	個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
<input type="checkbox"/>	職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
<input type="checkbox"/>	職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【コメント】

職員は「個人計画シート」を作成して提出している。年3回の個人面談の中で、「個人計画シート」の振り返りや見直しを行っている。また、年1回、職員に意向調査を行い、次年度の希望や退職の意向などを確認している。職員の定着は、毎年、若干名の退職で安定してはいるが、結婚や出産などもあるので、個人面談などで確認するようにしている。産休・育休後に、職場に復帰した職員もいる。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
<input type="checkbox"/>	施設が目指す養育・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	
<input type="checkbox"/>	現在実施している養育・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	
<input type="checkbox"/>	策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
<input type="checkbox"/>	定期的に計画の評価と見直しを行っている。	
<input type="checkbox"/>	定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	

【コメント】

期待する職員像や研修計画については、今後取り組む課題としている。現在、主任を中心にして内部研修の企画や外部研修への職員派遣を決めている。内部研修は、学園内の全体研修としているので、できるだけ多くの職員に参加してもらいたいため、月2回開催する職員会議の前の時間に設定して開催している。外部研修は職員の参加希望を尊重しているが、中堅職員を対象とした研修は、主任が本人に声をかけて派遣している。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
<input type="checkbox"/>	個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
<input type="checkbox"/>	新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	
<input type="checkbox"/>	階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
<input type="checkbox"/>	外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を奨励している。	○
<input type="checkbox"/>	職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
<input type="checkbox"/>	(社会的養護共通) スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【コメント】

主任を中心にして内部研修の企画や外部研修への職員派遣を決めている。内部研修は、学園内の全体研修としているので、できるだけ多くの職員に参加してもらいたいため、月2回開催する職員会議の前の時間に設定して開催している。外部研修は職員の参加希望を尊重しているが、中堅職員を対象とした研修は、主任が本人に声をかけて派遣している。外部研修に参加した職員は、研修報告書を提出して、職員会議の中で内容を報告している。研修報告書は綴って、職員が確認できるようにしている。

(4) 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

①	20 実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	a
<input type="checkbox"/>	実習生等の養育・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
<input type="checkbox"/>	実習生等の養育・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○

<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	
<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【コメント】

コロナ禍では、実習生の受け入れを自粛している。今年度より受け入れを再開して、保育士を目指す学生を中心に14名の実習生を受け入れている。実習期間中は、学生の学びの進捗状況の把握に努め、学校との連携を大切にしている。職員も負担にはなるが、実習生の対応は義務、使命と捉えて関わってほしいと思っている。実習後に就職につながったケースもあり、今後も依頼に応じて、実習生の受け入れを行っていく予定である。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。	第三者 評価結果
① 21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、養育・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の実存意義や役割を明確にするように努めている。	
<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○

【コメント】

ホームページに、事業報告書や財務諸表を掲載して、運営の透明性を確保する情報の公開を行っている。また、年2回、広報誌「しろやま通信」を発行して、関係機関や保護者、地域の病院や学校、町内会などに広く配布して、学園の取り組みを伝えている。コロナ禍で4年間中止していた卒園生の集い「城山会」を、今年度11月に再開し、20～30歳代を中心にして多くの卒園生が参加している。「城山会」では、卒園生が学園のこどもたちに向けて、社会に出てからのことを話したりしている。今後の事業展開もあり、地域への発信は数年かけて進めていきたいと考えている。町や町社会福祉協議会と連携し、福祉大会の中で、バザーの開催を、という話もある。

② 22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○

【コメント】

事務や経理については、事業計画書に主な役割を記載して、職員に周知している。経理などの状況は、外部の会計顧問に内容の確認を依頼している。会計顧問は、必要に応じて、月1回程来園している。今年度、土地を購入して、地域小規模児童養護施設の開設に向けて準備を進めている。職員にも、将来に向けて学園が動いているところを見せるようにしている。

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○

<input type="checkbox"/>	施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	(児童養護施設) 学校の友人等が施設へ遊びに来やすい環境づくりを行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

町内会に加入して、地域の行事に参加している。小学生を中心に、サッカーや野球、バレーボールなどの地域のクラブに参加しており、担当の職員が手伝いなどを積極的に行っている。地域に向けて、学園内でバザーを開催して、学園の活動を地域に知ってもらう取り組みを行っている。小学校低学年の登下校には職員が付き添い、子どもたちに交通のルールを教えたり、地域の方たちに積極的に挨拶をしている。

②	24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	a
<input type="checkbox"/>	ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

現在、学習ボランティアやピアノのボランティア、学童保育のボランティアが活動している。年度末には「ボランティア感謝会」を開催して、日頃のお礼を伝えるとともに、ボランティアの声を聞いている。ボランティアの受け入れに関しては、長く継続できるよう配慮している。また、学園側のボランティア活動として、学校へのボランティア活動に積極的に参加している。小学校などの夏休みに、花壇の水やりやウサギの餌やり、校内清掃などを職員が一緒に行って、学校とのつながりを作るようにしている。

(2) 関係機関との連携が確保されている。

①	25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
<input type="checkbox"/>	当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	<input type="radio"/>

【コメント】

児童相談所とは、年1回連絡会を開催する他、随時連携している。また、学校や町、町社会福祉協議会とも連携している。福祉関係機関やあすなろサポートステーション、消防署、警察署との関係も密に取っている。児童相談所が中心になって、所管地域の児童養護施設4施設が、里親の啓蒙活動や、研修会の手伝い、里親の家庭訪問などを行っている。町の中の社会資源として、児童養護施設をどう利用してもらうか、町や町社会福祉協議会と話し合っていきたいと考えている。

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
<input type="checkbox"/>	施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	(社会的養護共通) 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通して、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	(5種別共通) 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	<input type="radio"/>

【コメント】

町で開催される福祉大会や、要保護児童対策地域協議会、里親啓蒙活動などに参加して、地域のニーズの把握や、相談を受け付けている。地域には生活保護受給世帯や特定妊産婦など、子育てが厳しい家庭も多い。地域に向けた学習支援や放課後の学童の支援など、地域の中の児童養護施設として、今後どのような活動に取り組んでいったらよいか、町や町社会福祉協議会との話し合いを継続していきたいと考えている。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する養育・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	

【コメント】

町で開催される福祉大会や、要保護児童対策地域協議会、里親啓蒙活動などに参加して、地域のニーズの把握や、相談を受け付けている。また、学園内でバザーを開催したり、学校へのボランティア参加も積極的に行っている。地域の中の児童養護施設として、今後どのような活動に取り組んでいったらよいか、町や町社会福祉協議会との話し合いを継続していきたいと考えている。

Ⅲ 適切な養育・支援の実施

1 子ども本位の養育・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。		第三者 評価結果
①	28 子どもを尊重した養育・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した養育・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した養育・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【コメント】

子どもを尊重した養育・支援は、学園の理念に明記している。年度の初めに、園長から理念や基本方針、学園の考え方、子どもたちの人権について、職員に話をしている。今年度は園長不在のため、顧問弁護士に依頼して、全職員に人権の話をしてもらっている。また、年3回、全国児童擁護施設協議会の「倫理綱領」の読み合わせを行い、「人権チェックリスト」を全職員に配布して、日々の支援の振り返りを行っている。その後、主任や副主任との個人面談で、子どもとのかかわりを確認している。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した養育・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○

【コメント】

マニュアルを整備して、子どもや保護者のプライバシーの保護について、新人研修で職員に説明している。また、プライバシーに関する研修も行っている。学園のルールとして、他の子どもの部屋に入るときはノックをすること、本人がいない部屋に入らないことを決めている。意見箱に、他の子どもが勝手に自分の部屋に入ったとの投書があった時は、投書した子どもにどう対処してほしいか確認し、双方の気持ちを聞いて対応している。小さい子どもは、職員と一緒に入浴している。ほとんどの子どもは一人で入浴しているが、支援が必要な子どもは同性の職員が介助している。

(2) 養育・支援の実施に関する説明と同意(自己決定)が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して養育・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、養育・支援の内容や施設の特性等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【コメント】

ホームページやパンフレットに、学園の理念を明記している。ホームページでは、生活や部屋の様子など、写真を多く使ってわかりやすくしている。子どもの入所は、通常、児童相談所から依頼を受け、空き状態を確認しながら検討している。児童相談所のケースワーカーから子どもの状況について説明があり、受け入れを決めている。その後、子どもに見学に来てもらい、実際に部屋や生活の様子を見てもらっている。

②	31 養育・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	b
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等が自らの状況を可能な限り認識し、施設が行う養育・支援についてできるだけ主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程における養育・支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	

【コメント】

子どもの入所時には、児童相談所のケースワーカーから「権利ノート」について説明している。入所時、保護者が一緒に来ることはとても少ないが、一緒に来る保護者の中には、子どもに対して過干渉なケースもある。子どもには「やくそくくん」「ルールちゃん」にて、生活の約束について話をしている。実際に自分の部屋を確認してもらったり、リビングや浴室などを見てもらい、生活の様子を理解してもらうことが大切と考えている。

③	32 養育・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり養育・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、養育・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	

【コメント】

入所後は、担当職員と一緒に生活に必要な茶碗やお箸、コップ、歯ブラシなどの日用品や、衣服などの買物に出かけている。好きなキャラクターのついたものを買ったり、職員とコミュニケーションをとりながら、少しでも安心できるように一対一の時間を大切にしている。障害児施設に措置変更した子どもがいる。本人と見学に行き、施設がどんなところか確認している。移行にあたり、学園からも子どもの生活状況などの引継ぎ書を渡している。移行後も年賀状のやり取りや面会などに行き、子どもの元気な様子を確認している。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。		第三者 評価結果
①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【コメント】

子どもたちの集まりとして、小学生会、中高生会、全体協議会がある。それぞれ隔月で開催し、こどもたちは、小遣いを上げてほしい、土日はもう少しゆっくり寝たいなど、日常生活の希望や意見を活発に話し合っている。解決できるものはすぐに取り組み、時間がかかるものは理由を説明している。日常生活の中で職員は常に子どもに声掛けをしながら、子供の意見を聞く姿勢をとっていることから、子どもたちもよく話をしてくれている。意見箱を設置し、定期的に主任や副主任が内容を確認して全職員に周知している。今年は、児童相談所との連携のもと、約半数の子どもが自宅でお正月を迎える予定である。子どもたちはうれしさと不安を抱えてその日を待っている。残る子どものために、職員は門松作り、餅つき、初詣などを計画している。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。		第三者 評価結果
①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【コメント】

苦情解決責任者は主任、窓口担当者は副主任とし、第三者委員も設置している。子どもたちは意見箱を使用するよりも、職員に直接話をしてくることが多い。意見箱には、公文をやりたくないなどの意見が入っており、公文担当職員に対処してもらっている。また、小さい子どもと大きい子どものおやつ代が同じなのはおかしいなどの意見があり、職員が子どもたちに状況を説明している。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選ぶことをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【コメント】

子どもたちからの相談は、学習室や心理療法室を使い、プライバシーに配慮して話を聞いている。家に帰りたいたいという相談は、冬から春にかけて多くなる。子どもたちは何故ここにいなければならないのかという思いを、職員に話してくる。職員はまず「今の本当の気持ちを話してくれてありがとう」と伝え、子どもの思いを受け入れるようにしている。年齢の高い子どもの中には、職員にLINEで相談したりする子どももいる。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の養育・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、養育・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【コメント】

子ども同士のトラブルの相談は、相談した子どもと、相手の子どもと話し合い、お互いの気持ちが分かり合えるような機会を設け、すぐに対応している。学園側で検討が必要な場合は、次の職員会議まで時間が空いてしまうことがあるが、子どもには職員会議で検討して答えることを話して納得してもらっている。

(5) 安心・安全な養育・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な養育・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【コメント】

安全対策委員会を設置し、年2回、子どもたちから生活の中で危険はないか、アンケートを取りながら直接話を聞いている。園庭で大きい子どもたちがボール遊びをしていると怖いなどの意見に対し、遊ぶ時間帯を変えるなどの対応をしている。学園内の廊下が結露のため滑りやすくなり、転んで頭を打った子どもがいたため、昨年度、工事をして滑らない床にしている。ホーム内では、包丁などは持ち出しができないよう、鍵のかかるところに収納している。

②	38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。	○
	<input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	<input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○

【コメント】

新型コロナウイルスやインフルエンザ、ノロウイルス、0157などに対し、マニュアルを整備している。新型コロナウイルスの感染者が出た時は、子どもたちは隔離、職員は完全防備を行い、マニュアル通りに子どもたちに対応している。共有タオルは使わず、個人のタオルもしくはペーパータオルにして、換気にも努めている。県看護協会から講師を招いて、感染症対策の研修会も開催している。日々、子どもの動作や表情、食事量など、様子を確認しながら健康状態を把握している。健康診断は学校と嘱託医で、年2回実施している。

③	39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても養育・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○

【コメント】

マニュアルを整備し、避難先や引き取り体制、職員体制などを職員に周知している。毎月、地震や火事、夜間帯などを想定した避難訓練を行っている。火災想定避難訓練は、その都度火元を変えて行っている。立地上、津波の心配はないが、大雨の時は道路が封鎖され、職員が出勤できない可能性がある。消防署と連携し、年2回、訓練の協力を依頼している。非常食や飲料水を5日分備蓄し、栄養士が管理している。簡易トイレやガスコンロなども、倉庫に備えている。

2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の標準的な実施方法が確立している。		第三者 評価結果
①	40 養育・支援について標準的な実施方法が文書化され養育・支援が実施されている。	a
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	○

【コメント】

職員の入職時には、「はじめの一步」により、標準的な実施方法を示している。学園の考え方、理念、基本情報をはじめとして、職務規程、マニュアル、書類の書き方、子どもへの関わり方など、1ヶ月間指導者について、仕事の基本を覚えている。子どもたちがなぜ学園での生活を余儀なくされているか、支援の本来の目的を理解して、支援に携わっている。

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	b
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 養育・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【コメント】

子どもの養育・支援について、学園の基本姿勢は変わらない。マニュアル類は必要に応じて見直しはしているが、定期的な見直しは行っていない。子どもたちの自立支援計画は、年3回、定期的に見直し他、状況に応じて、随時見直ししている。職員の個人目標は、毎年、見直しを行っている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○

	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な養育・支援の内容等が明示されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員（種別によっては組織以外の関係者も）の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な養育・支援が行われている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

アセスメントという言葉は使っていない。児童相談所からの子どもの生活や家庭の様子などの書類、学校からの書類など、関係機関からの子どもの情報をファイルしている。入所後は、担当が項目ごとに子どもの様子を記入した書面を作成し、主任や副主任の確認を受けて、職員会議で内容を共有している。児童相談所のケースワーカーも参加して、自立支援検討会で、子どもたちの自立支援計画を作成している。自立支援検討会には、子どもたちが参加できるように検討している。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに養育・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、養育・支援を十分に実施できていない内容（ニーズ）等、養育・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

これまでは、大人が子どもの自立支援計画を立てていたが、自立支援計画は子ども自身のものである。次年度より、自立支援検討会に子どもが参加し、子どもの思いをできるだけ受け止めていく予定である。子どもたちのために、より良い検討会になるようにしていきたいと考えている。

(3) 養育・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する養育・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく養育・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの回覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

フェースシートや児童票、自立支援計画書、日々の生活の記録、健康診断、通知表、アルバイト契約書、駅伝などの表彰状など、すべてを個人のファイルにまとめている。自立支援計画書や日々の生活の記録は、パソコンに入力して管理している。職員間の引継ぎノートや食事情報の記録は、各ホームに置き、職員は常に確認をしてから、その日の勤務に就くようにしている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	<input type="checkbox"/>

<input type="checkbox"/>	記録管理の責任者が設置されている。	○
<input type="checkbox"/>	記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
<input type="checkbox"/>	職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
<input type="checkbox"/>	個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【コメント】

書類の管理責任者を主任として、子どもの個人ファイルは事務室の鍵付きのロッカーに保管している。退園した子どもの個人ファイルは、永久保存として、年度ごとにまとめて保管している。その他、業務日誌などは5年間保管している。以前、卒園した方が海外に行くため予防接種をしたかどうかを確認に来園したことがあり、昔の個人ファイルを調べて回答したこともある。

内容評価基準（24項目）

A-1 子どもの権利擁護、最善の利益に向けた養育・支援

(1) 子どもの権利擁護		第三者 評価結果
①	A1 子どもの権利擁護に関する取組が徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた養育・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に検討する機会を定期的に設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの思想・信教の自由について、最大限に配慮し保障している。	○

【コメント】

子どもの人権については、事業計画書に理念として明文化している。職員は「人権チェックリスト」に年3回取り組み、振り返りを行っている。月2回、男子部や混成部の会議を開き、ヒヤリハットについて職員間で積極的に話し合い、権利侵害の早期発見や防止に努めている。月2回の職員会議で全体で共有して、年度の初めに振り返りを行っている。自立支援計画には、子どもからの声を計画に反映させているが、今後は、子ども自身が主体的にかかわり、意見を反映できるよう検討している。教会への礼拝や牧師より話を聞く機会があるが、参加するかどうかは子どもの意思に任せている。

(2) 権利について理解を促す取組

①	A2 子どもに対し、自他の権利について正しい理解を促す取組を実施している。	a
	<input type="checkbox"/> 権利についての理解を深めるよう、年齢に配慮した説明を工夫し、日常生活を通して支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や状態に応じて、権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料等を使用して、生活の中で保障されるさまざまな権利についてわかりやすく説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員間で子どもの権利に関する学習機会を持っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりがかけがえのない大切な存在であり、自分を傷つけたりおとしめたりしてはならないこと、また、他人を傷つけたり脅かしたりしてはならないことが、日々の養育の中で伝わっている。	○
	<input type="checkbox"/> 年下の子どもや障がいのある子どもなど、弱い立場にある子どもに対して、思いやりの心をもって接するように支援している。	○

【コメント】

子どもの権利ノートは、自分で持っている子どももいる。預けている子どもの権利ノートも、必要があれば、いつでも出せるようにしている。子どもの権利については、日常生活の中で個々に説明している。毎日の打ち合わせで、年齢に合わせた対応について話し合い、職員間で共有している。子ども会議(小学生会、中高生会)と全体会議を交互に毎月行い、子どもたちが生活について話し合う場を持っている。支援学級に通う子どもに対しては、担当職員を中心にして、個々に合った対応をしている。言葉の説明だけではなく、絵を使うなど工夫している。

(3) 生い立ちを振り返る取組

①	A3 子どもの発達状況に応じ、職員と一緒に生い立ちを振り返る取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達状況等に応じて、適切に事実を伝えようと努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝える場合には、個別の事情に応じて慎重に対応している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 伝え方や内容などについて職員会議等で確認し、職員間で共有している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 事実を伝えた後、子どもの変容などを十分把握するとともに、適切なフォローを行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりに成長の記録(アルバム等)が用意され、空白が生じないように写真等の記録の収集・整理に努めている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 成長の過程を必要に応じて職員と一緒に振り返り、子どもの生い立ちの整理に繋がっている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

生い立ちを振り返る取り組みは、本人が知りたいと思うタイミングで対応できるよう、児童相談所と連携して慎重に行っている。担当職員以外には知られたくないという思いの子どももいる。子どもの意向と保護者の意向に沿った支援方法を職員会議などで検討し、職員間で共有している。児童相談所のケースワーカーと職員が同席し、一緒に振り返りを行っている。子どもがどんなふうを受け止めているのか、職員間で共有し、支援に取り組んでいる。また、担当職員がアルバムを作成している。自分でコメントを書き込んでいる子どももあり、アルバムを見てもらうことを楽しみにしている子どももいる。

(4) 被措置児童等虐待の防止等

①	A4 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 体罰や不適切なかかわり(暴力、人格的辱め、心理的虐待など)があった場合を想定して、施設長が職員・子ども双方にその原因や体罰等の内容・程度等、事実確認をすることや、「就業規則」等の規程に基づいて厳正に処分を行う仕組みがとられている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、会議等で具体的な例を示すなどして職員に徹底し、行われていないことを確認している。また、不適切なかかわりを発見した場合は、記録し、必ず施設長に報告することが明文化されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分自身を守るための知識、具体的方法について学習する機会を設けており、不適切なかかわりの具体的な例を示して、子どもに周知し、子ども自らが訴えることができるようにしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待が疑われる事案が生じたときに、施設内で検証し、第三者の意見を聞くなどの迅速かつ誠実な対応をするための体制整備ができており、被措置児童等虐待の届出・通告があった場合には、届出者・通告者が不利益を受けることのない仕組みが整備・徹底されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について説明した資料を子ども等に配布、説明している。また、掲示物を掲示するなどして、子どもが自ら訴えることができるようにしている。	<input type="checkbox"/>

【コメント】

職員の行動指針は、就業規則に明記している。年3回、職員は「人権チェックリスト」で振り返りを行っている。毎日、言葉遣いに問題はなかったか、対応が雑になっていないかなど、振り返るようにしている。意見箱を玄関や食堂、階段近くのスペースの3ヶ所に設置している。他の人の目に触れず、投函しやすい場所に設置し、週1回、内容を確認している。子ども同士のいじめは、時間をおかずに、すぐに対応している。トラブルには、職員1人では関わらず、複数の職員で対応するようにしている。安全対策委員(主任、副主任)が、夏休みに、子ども全員を対象に聞き取りを行っている。12月には子どもたちにアンケートを実施している。無記名で可としているが、記名があると対応がしやすい旨も伝えている。こどもたちの訴えを聞き取り、不適切な関わりの早期発見に努めている。

(5) 支援の継続性とアフターケア

①	A5 子どものそれまでの生活とのつながりを重視し、不安の軽減を図りながら移行期の支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの生活の連続性に関して、施設全体でその重要性を理解し、入所や退所に伴う不安を理解し受け止めるとともに、子どもの不安を軽減できるように配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 入所した時、温かく迎えることができるよう、受け入れの準備をしている。	<input type="checkbox"/>

	<input type="checkbox"/> 子どもがそれまでの生活で築いてきた人間関係などを、可能な限り持続できるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭復帰や施設変更にあたり、子どもが継続して安定した生活を送ることができるよう、支援を行っている。	<input type="radio"/>

【コメント】

入所時の引き継ぎは、児童相談所と連携を取って対応している。入所前に学園内を見学してもらったり、面談に向き、子どもの不安を軽減し、子どもの意思を確認している。中学校、高校の入学を機に、他施設から移行するケースもあり、その際は、前施設と連携をとって支援している。前施設への外泊の取り組みを、今年度からスタートする予定である。県内の児童養護施設対抗駅伝大会の際など、移行が決まっている子どもに「4月から待っているよ」など、声かけを行ったりしている。退所した子どもの一人暮らしの様子を見に行くなど、卒園児支援活動「エールパック」の取り組みを行っている。

②	A6 子どもが安定した社会生活を送ることができるようリービングケアと退所後の支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものニーズを把握し、退所後の生活に向けてリービングケアの支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所後も施設に相談できる窓口(担当者)があり、支援をしていくことを伝えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所者の状況の把握に努め、記録が整備されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 行政機関や福祉機関、あるいは民間団体等と連携を図りながらアフターケアを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 本人からの連絡だけでなく、就労先、アパート等の居住先からの連絡、警察等からのトラブル発生の連絡などにも対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 退所者が集まれる機会や、退所者と職員・入所している子どもとが交流する機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

自立支援担当職員が、退所後の子どもの支援に取り組んでいる。定期的に連絡を取って状況を把握し、相談があれば、元担当職員が直接会いに出向いている。状況は退所者支援記録で、職員が共有している。仕事ができない、働けなくなっている場合など、社会的養護自立支援事業の「あすなるサポートステーション」に一緒に行くなどの支援を行っている。福祉的就労では、勤務先と連携している。年1回、城山会(卒園児、退職職員)の同窓会を開催し、卒園児同士のつながりやネットワークを築いている。

A-2 養育・支援の質の確保

(1) 養育・支援の基本		第三者 評価結果
①	A7 子どもを理解し、子どもが表出する感情や言動をしっかり受け止めている。	a
	<input type="checkbox"/> 職員はさまざまな知見や経験によって培われた感性に基づいて子どもを理解し、受容的・支持的な態度で寄り添い、子どもと共に課題に向き合っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの生育歴を知り、そのときどきで子どもの心に何が起こっていたのかを理解している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが表出する感情や言動のみを取り上げるのではなく、被虐待体験や分離体験などに伴う苦痛・いかり、見捨てられ感も含めて、子どもの心に何が起こっているのかを理解しようとしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに行動上の問題等があった場合、単にその行為を取り上げて叱責するのではなく、背景にある心理的課題の把握に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもたちに職員への信頼が芽生えていることが、利用者アンケートを通じて感じられる。	<input type="radio"/>

【コメント】

各ホームに2名の担当職員を置き、子どもの思いや言動を受け止め、理解するように取り組んでいる。担当職員だけでは難しい場合は、全職員で相談して対応している。子どもたちは様々な体験をしてきており、入所前のことは、職員からは聞かないようにしている。不登校の子どもは、何が問題なのか、現状をしっかり受け止め、信頼関係を築きながら支援している。職員との信頼関係は、一人ひとり異なり、アンケートの回答だけでは、見えない部分があると感じている。

②	A8 基本的欲求の充足が、子どもと共に日常生活をいとなむことを通してなされるよう養育・支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子ども一人ひとりの基本的欲求を満たすよう努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 基本的欲求の充足において、子どもと職員との関係性を重視している。	<input type="radio"/>

<input type="checkbox"/> 生活の決まりは、秩序ある生活の範囲内で子どもの意思を尊重した柔軟なものとなっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもにとって身近な職員が一定の裁量権を有し、個々の子どもの状況に応じて柔軟に対応できる体制となっている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 基本的な信頼関係を構築するために職員と子どもが個別に触れ合う時間を確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 夜目覚めたとき大人の存在が感じられるなど安心感に配慮している。	<input type="radio"/>

【コメント】

勤務時間の中に「子どもと過ごす時間」を作り、カラオケやボーリング、外出など、担当職員が子どもと一緒に外出している。楽しみの時間を子どもと共有し、年2回、「外食の日」も計画している。幼児には、担当職員が子どもに寄り添い、一緒に入浴し、添い寝をして、寝かしつけている。寝る前には、絵本の読み聞かせをするなど柔軟に対応している。入浴の順番は、各ホームで臨機応変に対応している。学校の友だちが遊びに来たり、子どもから友だちの家に泊まりたいとの希望もある。外泊については、相手の保護者と連絡したりして支援している。

③ A9 子どもの力を信じて見守るという姿勢を大切にし、子ども自身が自らの生活を主体的に考え、営むことができるよう支援している。	a
<input type="checkbox"/> 快適な生活に向けての取組を職員と子どもが共に考え、自分たちで生活をつくっているという実感を持たせるとともに、施設の運営に反映させている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもが自分たちの生活における問題や課題について主体的に検討する機会を日常的に確保している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもがやらなければならないことや当然できることについては、子ども自身が行うように見守ったり、働きかけたりしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもを見守りながら状況を的確に把握し、賞賛、励まし、感謝、指示、注意等の声かけを適切に行っている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、主体的に問題を解決していくよう支援し、必要に応じてフォローしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子ども会議(小学生、中高生)や全体会議など、こどもたちが主体的に、自分たちの生活を考える場を設けている。子どもたちの声を聞き、曜日ごとの遊びや、スマホのルールなどを変更している。失敗した時は、どうすればよかったのか、次はどうするのかなど、子どもと職員と一緒に振り返りを行っている。子どもの失敗は、子どもが成長していくうえでの貴重な経験と捉えている。

④ A10 発達の状況に応じた学びや遊びの場を保障している。	a
<input type="checkbox"/> 施設内での養育が、年齢や発達の状況、課題等に応じたプログラムの下、実施されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 日常生活の中で、子どもたちの学びや遊びに関するニーズを把握し、可能な限りニーズに応えている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 幼児から高校生まで、年齢段階に応じた図書などの文化財、玩具・遊具が用意、利用されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 学校や地域にある子どもたちの学びや遊びに関する情報を把握し、必要な情報交換ができています。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どものニーズに応えられない場合、子どもがきちんと納得できる説明がされている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 幼稚園等に通わせている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/> 子どもの学びや遊びを保障するための、資源(専門機関やボランティア等)が十分に活用されている。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもの年齢に応じ、おもちゃや遊具、図書を揃えている。旧園舎のグラウンドで、バスケットや滑り台などでも遊べるようにしている。図書室にはDVDも用意している。小学生は公文式学習に取り組み、小学3年生までは学習室を使用し、公文式学習と宿題を行い、学習ボランティアがゆっくりと時間をかけて支援している。小学4年生からは、各自の部屋で勉強している。学習委員8名が、子どもたちの学習面をサポートし、テスト期間中は勉強会を行っている。週1~2回、学習ボランティア4名の協力があり、受験対策の学習指導を受けている。塾に通っている子どもも2名いる。地域のサッカーや野球、バレーボールのチームに所属している子どももいる。

⑤ A11 生活のいとなみを通して、基本的な生活習慣を確立するとともに、社会常識及び社会規範、様々な生活技術が習得できるよう養育・支援している。	a
--	---

<input type="checkbox"/>	子どもが社会生活をいとむ上での必要な知識や技術を日常的に伝え、子どもがそれらを習得できるよう支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	子どもと職員が十分な話し合いのもとに「しなければならないこと」と「してはならないこと」を理解し、生活するうえでの規範等守るべき決まりや約束を一緒に考え作っていくようにしている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	地域社会への積極的参加を図る等、社会性を習得する機会を設けている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	発達状況に応じ、身体の健康(清潔、病気、事故等)について自己管理できるよう支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	発達状況に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	<input type="radio"/>

【コメント】

毎朝、小学生の通学に職員が付き添い、交通ルールや挨拶など、基本的なルールが身に付くよう支援している。外出先での行動や来訪者への対応など、その場に合わせ、その都度、子どもに教えるようにしている。友だちとの約束は、必要に応じて、職員が相手の保護者に連絡を取り、約束を守ることができるようにしている。小さな子どもには職員と一緒に入浴し、体を洗ったりすることが自分でできるよう支援している。高校生にはSNSの使い方について、ニュースや新聞の記事などを見せて、どんなふうに使っているか確認して、使い方を教えている。入所前から携帯電話を使用している子どもが多く、使い方については課題もあると捉えている。

(2) 食生活

①	A12 おいしく楽しみながら食事ができるように工夫している。	a
<input type="checkbox"/>	楽しい雰囲気ですぐに食事ができるように、年齢や個人差に応じて食事時間に配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	食事時間が他の子どもと違う場合にも、温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	食事場所は明るく楽しい雰囲気、常に清潔が保たれたもとで、職員と子ども、そして子ども同士のコミュニケーションの場として機能するよう工夫している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	定期的に残食の状況や子どもの嗜好を把握するための取組がなされ、それが献立に反映されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	基礎的な調理技術を習得できるよう、食事やおやつをつくる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

朝食と夕食は、厨房で調理したものを各ホームで温め、手を加えて提供している。休日の昼食はパレットホール(食堂)で、全員でコミュニケーションを取りながら楽しく食べている。月2回、日曜日の夕食、各ホームごとに子どもたちがメニューを決め、材料から用意し、調理している。また月2回、メニューは決まっているが、子どもと一緒に調理している。子どもと一緒に調理することで、苦手なものや食べたことのないメニューにチャレンジする機会を作っている。食事の状況は栄養士に伝え、調理担当職員が食事場面を見に各ホームを回り、子どもたちの嗜好を把握してメニューに反映している。中・高校生のお弁当は厨房で作り、学校の友だちからは、学園のお弁当は美味しそうで羨ましいとの声があがっている。子どもが病気の時は、お粥やゼリー飲料など、食べやすいものを用意している。アレルギーのある子どもには除去食の提供を行っている。アレルギーの対応については、エピペン(アナフィラキシー補助治療剤)の使用方法などを職員が学んでいる。

(3) 衣生活

①	A13 衣類が十分に確保され、子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
<input type="checkbox"/>	常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものを着用している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	汚れた時にすぐに着替えることができ、またTPOに合わせた服装ができるよう、十分な衣類が確保されている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	洗濯、アイロンかけ、補修等衣服の管理を子どもの見えるところで行うよう配慮している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	衣服を通じて子どもが適切に自己表現できるように支援している。	<input type="radio"/>
<input type="checkbox"/>	発達状況や好みに合わせて子ども自身が衣服を選択し購入できる機会を設けている。	<input type="radio"/>

【コメント】

日々の衣服は自分で選べる子どもは、各自の衣装ケースから好きな物を選んで着ている。同じ物ばかり着る傾向がある子どもには、職員が声をかけている。衣類の洗濯は基本的には職員が対応しているが、中学生くらいからは自分でやっている。衣類の入れ替えは職員が子どもと一緒にやっている。子どもたちは職員と一緒に買物に行き、自分らしい好みの服を購入している。七五三などには学園で着物を用意して、入学式には子ども用スーツで正装してお祝いをしている。

(4) 住生活

①	A14 居室等施設全体がきれいに整美され、安全、安心を感じる場所となるように子ども一人ひとりの居場所を確保している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもにとって居心地の良い安心安全な環境とは何かを考え、積極的に環境整備を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 小規模グループでの養育を行う環境づくりに配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 中学生以上は個室が望ましいが、相部屋であっても個人の空間を確保している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 身につけるもの、日常的に使用するもの、日用品などは、個人所有としている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食堂やリビングなどの共有スペースは常にきれいにし、家庭的な雰囲気になるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 設備や家具什器について、汚れたり壊れたりしていない。破損個所については必要な修繕を迅速に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 発達や子どもの状況に応じて日常的な清掃や大掃除を行い、居室等の整理整頓、掃除等の習慣が身につくようにしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

7つのホームには、7色の虹にちなんだ名前が付いている。各ホームには、個室と2人部屋、キッチン、リビングがある。共有スペースは毎日、職員が掃除をして清潔を保っている。土・日曜日には、子どもたちが自分の部屋の掃除を行っている。子どもたちは、好きな漫画を自作の本棚に収めたりして、自分の空間を作って楽しんでいる。学園の畑で、野菜作りの手伝いをする機会もある。訪問調査時、クリスマスの飾りが各所にあり、飾りの中に7色のカラーが使われていたり、子どもたちの好きなキャラクターを型どった飾りで楽しめるよう工夫されていて、地域の方も見学に訪れている。

(5) 健康と安全

①	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、必要がある場合は適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの平常の健康状態や発達・発達状態を把握し、定期的に子どもの健康管理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 健康上特別な配慮を要する子どもについては、医療機関と連携して、日頃から注意深く観察し、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で医療や健康に関して学習する機会を設け、知識を深める努力をしている。	<input type="radio"/>

【コメント】

日常の健康状態の把握は担当職員が毎朝行い、ケース記録に記録している。引継ぎノートを使用し、日中の様子を宿直者に引き継いでいる。急変時は、対応マニュアルに沿って対応している。子どもたちが服用している薬は事務室内で職員が管理し、服薬の際は、目の前で飲んでもらうようにしている。日々の子どもの様子を観察して、精神科の受診などが必要な場合は、児童相談所の嘱託医と連携を取るようにしている。年1回、アレルギー対策や感染症予防の研修を、保健所の保健師より受けている。

(6) 性に関する教育

①	A16 子どもの年齢・発達の状況に応じて、他者の性を尊重する心を育てよう、性についての正しい知識を得る機会を設けている。	b
	<input type="checkbox"/> 他者の性を尊重し、年齢相応で健全な他者との付き合いができるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性をタブー視せず、子どもの疑問や不安に答えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性についての正しい知識、関心が持てるよう、年齢・発達の状況に応じたカリキュラムを用意し、活用している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて外部講師を招く等して、性をめぐる諸課題への支援や、学習会などを職員や子どもに対して実施している。	<input type="radio"/>

【コメント】

年齢や一人ひとりに合わせ、必要に応じて生活の中で、担当職員が伝えるようにしている。児童相談所の保健師と連携を取り、話をしてもらうこともある。婦人科の受診など、その時に応じて配慮して対応している。異性との付き合い方については、オープンに話ができ、聞くことができるよう、雰囲気作りに努めている。さまざまな背景を背負って入園してきた子どもが多いことから、全体に向けての性教育はあえて実施しなかったが、今後は、まずは職員に向けての研修を開催する予定でいる。

(7) 行動上の問題及び問題状況への対応

①	A17 子どもの暴力・不適応行動などの行動上の問題に対して、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設が、行動上の問題があった子どもにとっての癒しの場になるよう配慮している。また、周囲の子どもの安全を図る配慮がなされている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設の日々の生活が持続的に安定したものとなっていることは、子どもの行動上の問題の軽減に寄与している。また子どもの行動上の問題が起きた時も、その都度、問題の要因を十分に分析して、施設全体で立て直そうと努力している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 不適切な行動を問題とし、人格を否定しないことに配慮をしている。職員の研修等を行い、行動上の問題に対して適切な援助技術を習得できるようにしている。暴力を受けた職員へ無力感等への配慮も行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> くり返し児童相談所、専門医療機関、警察等と協議を重ね、事態改善の方策を見つけ出そうと努力している。	<input type="radio"/>

【コメント】

子どもの行動上の問題は、担当職員だけではなく、主任や副主任も入って対応するようにして、子どもの人格を否定しないよう配慮している。また、子どもが落ち着いて話すことができる職員が対応することもある。若い職員の間で対応に迷いがあった時は、先輩職員に意見を聞き、対応方法を学ぶようにしている。子どもの行動は時系列で記録を残し、職員間で情報を共有して、子どもがダメージを受けないようフォローしている。子どもの行動上の問題に対する、職員の援助技術の向上は、今後の課題と捉えている。

②	A18 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などが生じないよう施設全体で取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方について定期的に点検を行っており、不備や十分でない点は改善を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 生活グループの構成には、子ども同士の関係性、年齢、障害などへの配慮の必要性等に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 課題のある子ども、入所間もない子どもの場合は特別な配慮が必要となることから、児童相談所と連携して個別援助を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 大人(職員)相互の信頼関係が保たれ、子どもがそれを感じ取れるようになっている。子ども間での暴力やいじめが発覚した場合には、施設長が中心になり、全職員が一丸となって適切な対応ができるような体制になっている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 暴力やいじめに対する対応が施設だけでは困難と判断した場合には、児童相談所や他機関等の協力を得ながら対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	<input type="radio"/>

【コメント】

安全対策委員会による子どもの聞き取りや、意見箱を活用し、子どもの変化を見落とさないよう努めている。暴力は許してはいけないこととして、職員も共通の認識を持っている。問題が発生した時は、必ず他の職員もフォローし、状況を共有して協力体制をとるようにしている。年上の子どもの注意を、下の子どもが恐いと感じることもあり、言われた側の子どもが安心できるまで職員が入り対応している。

(8) 心理的ケア

①	A19 心理的ケアが必要な子どもに対して心理的な支援を行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアを必要とする子どもについては、自立支援計画に基づき心理支援プログラムが策定されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設における職員間の連携が強化されるなど、心理的支援が施設全体の中で有効に組み込まれている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理的ケアが必要な子どもへの対応に関する職員研修やスーパービジョンが行われている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員が必要に応じて外部の心理の専門家からスーパービジョンを受ける体制が整っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 心理療法を行うことができる有資格者を配置し、心理療法を実施するスペースを確保している。	<input type="radio"/>

児童相談所と連携し、対象となる子どもの保護者等へ定期的な助言・援助を行っている。

【コメント】

現在、臨床心理士を配置していないため、月1回、児童相談所の心理司が定期的に子どもと面接している。支援の内容は職員と連携を取りながら、自立支援計画に反映している。内容については、日々の報告の中で共有し、対象となる子どもについて連携を図っている。

(9) 学習・進学支援、進路支援等

① A20 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援を行っている。

a

静かに落ち着いて勉強できるようにその時の本人の希望に沿えるような個別ペースや学習室を用意するなど、学習のための環境づくりの配慮をし、学習習慣が身につくよう援助している。

学校教師と十分な連携をとり、常に子ども個々の学力を把握し、学力に応じた個別的な学習支援を行っている。一人ひとりの必要に応じて、学習ボランティアや家庭教師、地域の学習塾等を活用する機会を提供している。

学力が低い子どもについては、基礎学力の回復に努める支援をしている。

忘れ物や宿題の未提出について把握し、子どもに応じた支援をしている。

障害のある子どものために、通級による指導や特別支援学級、特別支援学校等への通学を支援している。

【コメント】

子どもたちは、各ホームのリビングや居室で勉強している。受験勉強などで、集中して勉強したい子どもは学習室を使用している。また、試験前には学習会を開催している。小学生は公文式学習に取り組み、毎日勉強している。学力の低い子どもは、学習ボランティアが子どもの状況に合わせて指導している。高校受験のために、塾に通っている子どももいる。

② A21 「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。

a

進路について自己決定ができるよう進路選択に必要な資料を収集し、子どもに判断材料を提供し、子どもと十分に話し合っている。

進路選択に当たって、本人、親、学校、児童相談所の意見を十分聞き、自立支援計画に載せ、各機関と連携し支援をしている。

就学者自立生活支援事業、社会的養護自立支援事業、身元保証人確保対策事業、奨学金など、進路決定のための経済的な援助の仕組みについての情報提供をしている。

進路決定後のフォローアップや失敗した場合に対応する体制ができており、対応している。

学校を中退したり、不登校となった子どもへの支援のなかで、就労(支援)しながら施設入所を継続することをもって社会経験を積めるよう支援している。

高校卒業後も進学を希望する子どものために、資金面、生活面、精神的面など、進学の実現に向けて支援、情報提供をしている。

高校卒業して進学あるいは就職した子どもであっても、不安定な生活が予想される場合は、必要に応じて措置延長を利用して支援を継続している。

【コメント】

子どもたちの進路は、自立支援担当職員を中心に対応している。高校生になってから、進学と就職のどちらを目指すのか、担当職員と具体的に話し合いを行っている。進学の場合、奨学金制度などの情報を提供している。本人の意向を聞き、自分で進路が決められるようにしている。大学の推薦入学が決まった子どももいる。子どものアフターフォローは月1回程度、連絡をとり話を聞いている。必要に応じて会いに行き、直接支援をしている。

③ A22 職場実習や職場体験、アルバイト等の機会を通して、社会経験の拡大に取り組んでいる。

a

実習を通して、社会の仕組みやルールなど、自分の行為に対する責任について話あっている。

実習を通して、金銭管理や生活スキル、メンタル面の支援など、子どもの自立支援に取り組んでいる。

実習先や体験先の開拓を積極的に行っている。

	<input type="checkbox"/> 職場実習の効果を高めるため、協力事業主等と連携している。	○
	<input type="checkbox"/> アルバイトや、各種の資格取得を積極的に奨励している。	○

【コメント】

社会の仕組みやルールを知り、社会性を身につけるため、高校生からアルバイトを行っている。インターネットや求人広告を活用し、また、地元の業者と連携して、アルバイト先を決め、自立に向けた経験を積むようにしている。町内のコンビニエンスストアやファミリーレストラン、パン屋、キャンプ場、旅館と、自分に合ったところでアルバイトをしている。アルバイトの時間は21時までとし、学園から迎えの車を出して、車に乗って帰って来られるよう支援している。

(10) 施設と家族との信頼関係づくり

①	A23 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設の相談窓口および支援方針について家族に説明し、家族と施設、児童相談所が子どもの成長をともに考えることを伝え、家族と信頼関係を構築できるよう図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員の役割を明確にし、施設全体で家族関係調整、相談に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅などを取り入れ子どもと家族の継続的な関係づくりに積極的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 外出、一時帰宅後の子どもの様子を注意深く観察し、不適切なかかわりの発見に努め、さらに保護者等による「不当に妨げる行為」に対して適切な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもに関係する学校、地域、施設等の行事予定や情報を家族に随時知らせ、必要に応じて保護者等にも行事への参加や協力を得ている。	○

【コメント】

学校や学園の行事の予定は、年度の初めに保護者に連絡している。保護者への対応は積極的に行い、関係作りに努めている。児童相談所のケースワーカーと連携を図りながら、家庭との関係作りを行っている。外泊から戻ってきた子どもの様子を確認し、話をよく聞いて適切な対応に努めている。外泊中はお風呂に入らないことが普通になってしまっているなど、様子を見ながら保護者に連絡して話をしている。

(11) 親子関係の再構築支援

①	A24 親子関係の再構築等のために家族への支援に積極的に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を中心に、ケースの見立て、現実的な取組を可能とする改善ポイントの絞り込みを行うなど、再構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている。	○
	<input type="checkbox"/> 面会、外出、一時帰宅、あるいは家庭訪問、施設における親子生活訓練室の活用や家族療法事業の実施などを通して、家族との関係の継続、修復、養育力の向上などに取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 児童相談所等の関係機関と密接に協議し連携を図って家族支援の取組を行っている。	○

【コメント】

今年度内に1件の家庭復帰のケースがあった。自立支援計画に基づき、親子関係の再構築に取り組み、保護者と子どもの不安に対処している。保護者と話し合い、面会や外出、外泊で親子交流を支援している。また、学校とネット会議を行ったこともある。児童相談所と連携を取りながら、親子生活訓練室でペアレントトレーニングを実施している。グループホームでも、保護者が宿泊できるよう体制を整えている。